

評価対象年度	平成 29 年度
1次評価日（課長等）	30年 9月 28日
2次評価日（部長等）	30年 10月 3日

施策評価表

1 施策の概要

施策名	文化・芸術の振興	コード	11-1
この施策の主な内容（細施策）	(1) 文化施設の活用 (2) 文化活動の促進支援		
第4次総合計画におけるこの施策の目的	芸術や伝統文化、歴史など市民が身近に接し、特色ある芸術文化を活発に行うことができるよう環境整備を図る。		
担当部課	部 教育部	課等 生涯学習課	作成者 小池 秀昭

●施策の実施内容 (D0)

2 施策指標の達成状況

* 第4次総合計画における目標指標の達成状況（最終年度：30年度）

施策指標名	単位	27年度	28年度	29年度		30年度	31年度	
		実績値	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値
① 美術考古館入館者数	人	10,416	10,205	12,000	11,283	94.0%	14,000	
指標説明	美術考古館の年間入館者数							
② カノラホール入館者数	人	94,287	96,686	107,700	99,080	92.0%	109,000	
指標説明	舞台芸術作品鑑賞と市民の発表の場として利用促進する。							
③ 蚕糸博物館入館者数	人	46,305	32,027	40,000	35,035	87.6%	50,000	
指標説明	糸都岡谷の歴史と伝統を広めるとともに、岡谷ブランド発信の拠点として利用促進する。							
③ イルフ童画館入館者数	人	33,163	36,513	27,700	30,983	111.9%	28,400	
指標説明	童画のまちづくりを推進するため利用促進する。							

3 施策全体にかかる合計コストの推移

* 項目6より「直接事業費」「人件費」の合計を自動表示

単位：千円

	27年度	28年度	29年度	30年度（予算）
直接事業費	72,275	51,982	48,116	49,951
人件費	35,520	39,760	44,000	44,000
合計コスト	107,795	91,742	92,116	93,951

●施策の評価 (CHECK)

4 施策の現状評価

* 29年度に施策の目的がどこまで達成できたか、施策の進行状況に関する順調／不調の判断

- ・美術考古館は、商業会との連携による、にぎわいの創出に努めたほか、新たな館長を講師として開催した絵画教室や、日本遺産申請に合わせた黒曜石の展示、季節や行事に合わせたワークショップなど特色ある取組みにより、入館者数は増加した。
- ・カノラホールは、ポップス音楽など集客が見込める公演が多く開催されたこと、また7月より利用者の利便性向上を図るため行った大ホールの貸し出し形態の変更などにより入館者数は増となった。
- ・蚕糸博物館は、職員による館内解説案内が旅行会社に好評を得るなか、秋から冬に掛けて大口団体の利用が多かったことにより入館者数は増となった。
- ・イルフ童画館は、武井武雄に関連し今後の活躍が期待される若手作家を中心とした企画展を開催したが入館者数は減となった。

* 岡谷市の現状のうち、この施策にとって強み／弱みとなる要因

岡谷市の強み	文化施設がコンパクトな市街地に点在することにより、他施設との連携や回遊性が図られる。蚕糸、童画、縄文など特色ある文化が継承されている。
岡谷市の弱み	人口規模に対し文化施設の維持管理への財政負担が大きい。

5 今後の外部環境の変化

*30年度以降に予測される社会・経済などの環境変化のうち、この施策に具体的に影響する要因

有利に働くもの	地域の特長を生かした文化振興が全国各地で進められている。 30年度に縄文の文化が日本遺産に認定されたほか、市内出土の縄文土器が県宝に指定された。
不利に働くもの	公共施設総合管理計画により施設の維持管理・長寿命化が検討され、計画的な施設の改修が求められる。

●改善の内容 (ACTION) / 次年度の計画 (PLAN)

6 平成31年度 施策を構成する事務事業の方向性

●基本的な考え方

*優先して実施する分野=優先度がA・Bの事業：拡大する事業や新規事業の内容、優先的に実施する理由
*見直しを行う分野 =優先度がC・Dの事業：見直しの内容、見直しや廃止をする理由

優先して実施する分野	市民一人ひとりの日々の暮らしを豊かにし、心の充足感、生きる力、他人に対する優しさなどをはぐくむことができるよう、文化や芸術に触れる機会の充実に努めるほか、個人や団体の主体的な文化芸術活動を発表できる場を提供し、文化や芸術への関心を高めることにより、市民の文化芸術活動の活性化を図る。
見直しを行う分野	

●31年度の優先度

*方向性が「継続」の事業についてA~Cを、「新規事業」の事業についてAをランク付け。方向性が廃止、完了、統合となっている場合は「-」を付する。 直接事業費・人件費の単位：千円

No	新規事業	様式	実施義務	事務事業名	成果指標		直接事業費			人件費			妥当性	方向性	優先度
					指標名	単位	27年度	27年度	27年度	28年度	28年度	28年度			
1	公共施設	あり	博物館管理運営事業	施設稼働率	%	100	54,925	11,200	高い	30年度より統合	B：現状維持				
						100	36,378	16,000							
						100	34,487	16,000							
						100	37,683	20,000							
2	一般	なし	調査・活用事業	ワークショップ等の開催日数	日	130	271	2,800	高い	30年度より統合	A：拡大				
						103	315	2,800							
						86	322	2,800							
						-	-	-							
3	公共施設	あり	美術考古館管理事業	施設稼働率	%	100	10,953	9,600	高い	継続して実施	B：現状維持				
						100	10,230	9,600							
						100	8,772	9,600							
						-	6,381	9,600							
4	一般	なし	美術考古館学習事業	ワークショップ等の参加者数	人	664	170	1,040	高い	継続して実施	B：現状維持				
						737	229	1,600							
						960	153	1,600							
						340	249	1,600							
5	一般	なし	美術考古館展示事業	1日の入館者数	人	35	149	2,400	高い	継続して実施	B：現状維持				
						35	117	2,400							
						38	148	2,400							
						36	977	2,400							
6	一般	なし	美術考古館展示事業(企画展)	1日の入館者数	人	35	1,876	2,400	高い	継続して実施	B：現状維持				
						35	1,299	2,400							
						38	860	2,400							
						36	1,470	2,400							
7	一般	なし	体験工房管理事業	まゆ人形ワークショップ、出前講座の開催日数	人	30	286	1,280	低い	30年度より統合	B：現状維持				
						9	200	160							
						66	292	1,200							
						-	-	-							
8	一般	なし	企画展等開催事業	1日の入館者数	日	157	3,645	4,800	高い	30年度より統合	B：現状維持				
						131	3,214	4,800							
						114	3,082	8,000							
						100	3,191	8,000							